

「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」  
平成24年度プロジェクト型共同研究報告書  
「北東ユーラシア地域における社会主義体制下のライフヒストリー研究：  
文化の管理と日常実践を中心に」

構成員： 永山 ゆかり (北海道大学文学研究科・助教) 代表  
丹菊 逸治 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター・准教授)  
滝口 良 (北星学園大学・非常勤講師)

研究協力者

江畑冬生 (日本学術振興会特別研究員, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所／サハ語)  
荻原小百合 (北海道大学大学院文学研究科・歴史文化論講座博士課程／サハ民族音楽)  
藤原潤子 (総合地球環境研究所・プロジェクト上級研究員／ロシア・フォークロア)

1. 研究の概要

本研究の目的は (1) 北東ユーラシア地域におけるライフヒストリー研究の基礎資料の集積、(2) 社会主義体制下の社会に固有なライフヒストリー研究の方法論の再検討、(3) 当該地域におけるライフヒストリーおよびその関連分野の研究に携わる若手研究者の学際的なネットワーク構築の3点である。これに従い、各構成員がこれまでに収集した資料の中からライフヒストリーに関わるデータを抽出し、次にライフヒストリー研究にまつわる問題点および社会主義体制下の社会に特化したライフヒストリー研究の方法論について比較検討を行なった。

具体的には永山 (カムチャッカ／アリュートル) が社会主義体制下で先住民が経験した強制移住や民族文化の断絶を招いた寄宿制度、さらに伝統的生業の実践などについて、丹菊 (サハリン／ニヴフ) がニヴフ語話者による語り資料のアーカイブ化の問題について、また滝口 (モンゴル) は社会主義国家では禁じられていた資本主義的な市場取引をいかに実践していたかについて、すでにある資料の中からまとめた。

これと平行して月1会程度の勉強会および年3回の研究会・セミナーを開催した。セミナーでは外部からスラブ・ユーラシア地域におけるライフヒストリー研究の実績を有する研究者を講師に招き、本研究構成員以外の研究者も含めてライフヒストリー研究について意見交換を行なった。

研究目的 (1) および (3) については十分な成果が得られた。研究目的 (2) については、「ポスト社会主義・社会主義を実際に体験した人の語り」としての共通性を見出すには至らなかったものの、資料制約がある／研究の蓄積が少ない／研究者の数が少ないという地域の特殊性から、今後も引き続き資料収集を行うことの重要性を再認識した。また、言語学者や口承文芸学者が収集した、ライフヒストリー研究の枠組みによらない資料であっても、ライフヒストリーの専門家が調査を行っていない地域にあっては、当事者が書いた回想記・日記・ルポタージュと同程度の価値があるということで共通見解に達した。

## 2. 研究の実施状況

構成員による勉強会・打ち合わせに加え次の活動を行った。

### [セミナー]

- 「ロシアにおける呪術信仰実践の聞き取り調査」2012年5月  
報告者：藤原 潤子 （総合地球環境学研究所・プロジェクト上級研究員）
- 「言語学者によるライフヒストリー資料採録」 2012年11月21日(水)
  - 「ウデヘ人教師の自伝出版への道のりとその後」  
報告者：津曲敏郎(北海道大学大学院文学研究科教授)
  - 「あるサハ語教師のライフヒストリー」  
報告者：江畑冬生 （日本学術振興会特別研究員／東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）
- 「日本領樺太に暮らしたアイヌの生活と歴史を聞いて」2013年2月5日(火)  
報告者：田村将人 （北海道開拓記念館）

### [現地調査]

本プロジェクトの構成員である滝口良が次の調査を行った。

「社会主義体制下の市場取引に関する聞き取り調査」  
モンゴル・ウランバートル市（3月5日～3月25日）

## 3. 研究成果公開

### [論文]

- Nagayama, Y. (2013) Personal Experience of Cultural Succession in Northern Kamchatka: The Case of an Alutor, *Journal of the Center for Northern Humanities*, 137-156.
- Takiguchi, R. (2013) A Savvy Trader in Socialist Mongolia: An Interview Data for Investigations of the Socialist Period *Journal of the Center for Northern Humanities*, 167-175.
- 滝口良（2013）「つぎはぎの所有：社会主義体制下のモンゴルの都市部における「生の財産」と居住空間の構成」『北海道民族学』第9号：1-14.
- Tangiku, I. (2013) A Case of Nivkh Phonetic Material: Possibilities of Archiving Recordings of Endangered Languages in the Sakhalin Region, *Journal of the Center for Northern Humanities*, 157-165.

### [口頭発表]

北海道民族学会2012年度 第2回研究会（2012年11月11日，北海学園大学）  
特別セッション《北東ユーラシア地域のライフヒストリー》  
永山ゆかり「語りから見たカムチャッカのアリュートル民族の文化継承」

丹菊逸治「ニヴフの言語・口承文芸調査時に採録された『生活体験の語り』」

滝口良「社会主義体制下のモンゴルにおける個人商の活動：ポスト社会主義国におけるインタビュー・データの利用可能性について」

上記に加え、2013年7月開催の北海道大学大学院文学研究科・北方研究教育センター共同研究会においても口頭発表を行う予定である。